



明るくやさしさに溢れる石神井中

石神井中だより

練馬区立石神井中学校

校長 山根 浩孝

平成 30 年 5 月 2 日

第 2 号

進んで行動する

校 長 山根 浩孝

新年度を迎えてから、1か月が経ちました。おかげさまで、各学年とも、新しいクラスで、新しい仲間と落ち着いた学校生活を過ごしています。部活動では、春季大会も始まり、3年生が中心となって、今までの成果が発揮できるよう、一生懸命、練習しています。5月から6月にかけては、生徒総会、体育祭、移動教室（I組）等、たくさんの行事が行われます。石神井中の生徒たちには、「早寝、早起き、朝ごはん」規則正しいリズムのある生活を身に付けるようにしてほしいと思います。



先月の27日、離任式が行われました。当日は、この3月に去られた6名の先生が来校されました。それぞれの先生からは、石神井中学校の思い出や生徒のことにふれ、石神井中生の良いところは「何事にもあきらめずに一生懸命に取り組むことができること」「大きな声で気持ちの良いあいさつができること」そして「つらいことがあっても、我慢すればいつかは必ず乗り越えられること」「石神井中は、頑張れば何でもできるすばらしい学校であること」等を話してくれました。お礼の言葉や花束を贈呈した生徒たち、去られた先生からのお話を聴く生徒たちの姿は、どの学年もとても立派でした。最後に校歌斉唱をして、去られた先生に感謝の気持ちを伝え、とても心温まる離任式となりました。

先月の22日(日)石神井公園周辺で「第31回照姫まつり」がありました。石神井中学校でも、毎年、本校の「親父(おやじ)の会」が中心となって、模擬店を出店し、石神井中名物「イカ焼き」やフランクフルト、ソフトドリンクの販売をしています。今年も今までと同様に、石神井中の生徒全員に「ボランティア募集のお知らせ」を配布して、参加者を募ったところ、50名以上の生徒たちの参加がありました。ボランティア参加生徒は前半(10:00~12:30)と後半(12:30~15:00)に分かれ、石神井公園の東・くつろぎひろばに集合して、積極的に販売、運営に参加していました。私が感心したことは、始めのうちこそ慣れない手つきで戸惑っていた生徒たちも、親父の会の方々と作業を進めるうちに、どんどん手際が良くなり、楽しそうに活動する姿がたくさん見られたことです。中には「来年もまたやりたい」という感想もありました。普段はなかなか経験できないことを実際に体験することで、生徒たちの良い面をみることで、大変うれしく思いました。そして、進んでボランティアに参加した生徒や参加しようと思った生徒がたくさんいたことは、とてもすばらしいことだと思いました。



石神井中学校にも、生徒会が企画するボランティア活動があります。ボランティアとは、もともと無償の奉仕活動で、言葉の意味から考えれば、人を助けるということになります。しかし、ボランティアとは、「してあげる」のではなく「させていただく」という気持ちが重要だと思います。「何かをしてあげている」という気持ちは必ず態度にも出てしまい、ボランティアを受ける側からすると気持ちが良いものではないことがあります。ボランティア活動に参加するということは、その代償を求めるのではなく、体験を通じて充実感を感じ、他を思いやる優しい心が育つことが重要です。私たちの生活する社会が、決して押し付けではなく、自然にボランティア活動が日常的に行われる社会となったとき、とても住み心地の良い社会になるのではないのでしょうか。皆さんもこれからの人生の中では、人に助けってもらうこと、人を助けてあげることがきっとあると思います。石中生には、社会や人のために、自分の意思で人の役に立つ活動を進んでできる生徒になってほしいと思います。